

2025年物流問題と備蓄米

昨年の春「2024年物流問題」により肥料の配送等が混乱をきたすのではないかと言われていた。しかし3月までに各産業の物量が動いたこともあり大きな混乱とはならなかった。メーカーも肥料流通業者も生産者に遅延なく肥料を届けることができ、その後は話題にも上らなくなった。この一年で運賃アップの要求を受け入れ、メーカーは待機時間の短縮等の対策をし、2025年春肥を迎えた。

長距離輸送のトラックが取りにくくなり、「2ヶ所積や2ヶ所おろし」は断られ、「手積手おろし」はもつてのほかという状況になった。「パレット輸送」は当たり前として考えないといけない状況のようだ。また従来頼んでいた運送業者だけでは間に合わなくなり、新たに数社にお願いしたという話も聞く。更にやつとつかまえたトラックがメーカーの予約システムの枠が埋まっておりトラックを断らざるえなかったという話も耳にする。2024年とは全く事情が変わったということだ。

一方、NHKの報道によると「長時間の荷待ち」で労働時間が減らせないドライバーや「標準運賃の7割以下」で運送している中小の運送業者にしわ寄せがいく構図があり、国土交通省も問題視し、対策を練っているようだ。

肥料は「一番嫌われる荷物」になったと肥料商からの声も多い。また「近場に肥料を取りに行く」ことを考えないと運送業者が肥料を引取に行ってくれなくなったとの声もある。「近場」という「距離」は勿論であるが、それ以上に「帰り荷」として引取に便利という立地が優先されているようだ。肥料工場立地は変えることができないが、メーカー間の肥料の生産委託、さらにはストックポイント設置など解決策をメーカー共々考えないといけない。

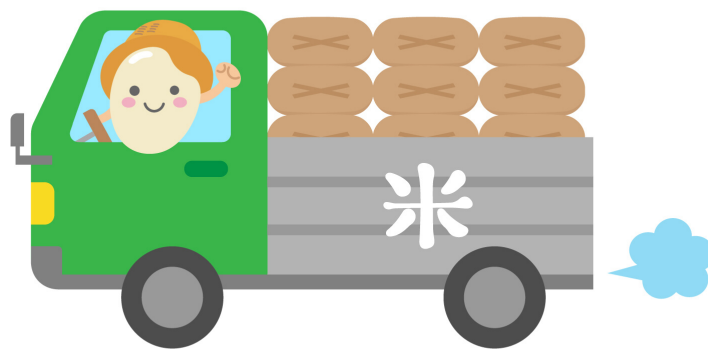
2025年は「お米」の話題が毎日報道され、様々なマスコミが取り上げ、にわか評論家がコメントしている。

農林水産大臣が交代した途端に「政府備蓄米の随意契約」による30万トン、更に追加20万トンの放出の話が飛び出してきた。「一般競争入札」分を加えると「政府備蓄米」の放出は約81万トンになる。結果「政府備蓄米」の在庫は約10万トンになる見込みだ。「無制限に放出」するとの報道であるが大丈夫だろうか。

今年の米は豊作という前提だと思うが、気象条件で昨年よりも更に収穫量や一等米比率が下がれば「今年以上の米不足」になる。需給バランスをどう考えているのか？「消えた21万トン」ではなく「消えた80万トン」だったのか？

選挙対策より抜本的な農業生産対策が必要だ。農業従事者の減少は止められない。農地集約・大規模農家の規模拡大は労働力不足も相まって今までのように増えてはいかないし、現実には簡単なことではない。平らな田畑ばかりではないし、野菜や果樹の大規模化も厳しい状況であることを認識しないといけない。

日本の農業はまだまだ問題山積の2025年になりそうだ。「米の増産」は肥料業界にとって追い風であったが、物流問題は向かい風である。毎年厳しいと言われている肥料業界が「ゆでガエル」にならないよう乗り切っていきましょう。



～IFA国際肥料会議 in モナコ～

先の5月12日～14日にIFA【国際肥料協会】の主催する国際会議がモナコにて行われ、当社は原料部メンバーが参加してきました。

モナコ公国（Principality of Monaco）は、フランスの地中海沿岸に位置する世界で2番目に小さな独立国家で、面積はわずか2.02平方キロメートル、人口は約36,000人で、世界でも屈指の人口密度を誇ります。1週間後にはF1のモナコグランプリが控えているとあって、観客席などが整備されていました。我々は毎日鉄道駅から会場まで20分ほど徒歩で通っていましたが、狭い国土の中で建物がギュッと詰まっているのを肌で感じました。

IFA国際会議について、会議は年2回、世界各国で行われ、世界中の肥料に関係する原料及び肥料メーカー、バイヤー、トレーダー、情報誌機関等が一堂に集結します。今回のモナコ会議はアジアのサプライヤー、バイヤーの参加が少なく、比較的落ち着いた状況での会議となりました。当社メンバーは普段取引をしているサプライヤー、バイヤー始め、新規取引の可能性が伺える原料/肥料メーカー、トレーダー、情報誌機関とも面談を行い、情報収集に努めて参りました。



原料市況について、窒素系・リン酸系は共に高値安定を示しています。中国はDAPの輸出に制限をかけて再開、また紅海危機による供給不安などから価格は高止まりまたは上昇傾向が見られます。加里系に関して、塩化加里は各サプライヤーが中国、インドの長期契約に関して大幅な値上げを予想していたのが印象的でした。日本向け価格もSPOT MARKETの上昇幅が論点の一つになる印象を受けました。①塩化加里価格がどこまで上昇するのか、②中国の輸出制限が今後どうなるかが話題の中心を占めていました。中国は尿素の輸出を再開しましたが、中国国内の尿素価格が上がらないよう制限をかけています。おそらく輸出を際限なく続けることは困難であり、中国国内価格の高騰抑制と輸出政策の不透明さが影響しております。中国の燐安の輸出規制に関して、IFA国際会議後に9月末までの法定検査の実施が発表されました。法定検査と割当制度の手法は継続されるであろうとの見解です。当社原料部・海外部としては、引き続き、各国関係者との連携を密にしながら情報収集、競争力のある原料肥料供給に努めて参ります。(原料部)

モナコ公国の料理を検索したところ、美味しそうなものが多く食べてみたくなりました。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511／E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>